

令和4年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	体をきたえ 心をひろいて みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	児童、教職員、地域にとって行きがいのある学校 自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 教育の専門職としての自信と誇りをもち、熱意をもって職務や自己研さんしに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師																
	前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・「いきいきと学ぶ学校づくり」について、1年生からの算数少数人数習熟度別指導や放課後補修教室の活用により、基礎的・基本的な内容の習得と定着を促進することができた。 ・「特色ある教育の展開」について、様々な外部団体と連携し取組を行い、児童の豊かな心の育成や、希望をもって未来を担おうとする姿勢を醸成していくことができた。 <課題> ・「特別支援教育の充実」について、基礎的配慮や支援を要する児童の増加に即応する支援や指導の体制整備や、個に応じた支援や指導の工夫改善と情報の共有を推進していく。 ・「教員の資質向上」について、基礎形成期相当の教員に対するOJTの充実や、「令和の日本型教育」に求められる教員の情報活用能力等の資質向上を図るための校内研究及び研修の充実を図っていく。																		
教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価	学校関係者評価	年度末に向けた改善策													
				取組	成果	コメント														
確かな学力の向上	・「確かな学力向上プラン」の実施・改善による指導の充実と授業力の向上 ・学力向上のための補習の充実	・自己申告の機会を活用した授業観察の実施(年3回) ・「東京ベージックドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年2回実施し、平均正答率を前年度比10%以上向上させる。 ・授業におけるICTの活用については、全ての教員が1日2単位時間以上授業でICTを活用することができている。今後は教員のICT活用の質的向上や、児童のICT活用の更なる充実を目指していく。	・「東京ベージックドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年2回実施し、平均正答率を前年度比10%以上向上させる。 ・授業におけるICTの活用については、全ての教員が1日2単位時間以上授業でICTを活用することができている。今後は教員のICT活用の質的向上や、児童のICT活用の更なる充実を目指していく。	・「東京ベージックドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年2回実施し、平均正答率を前年度比10%以上向上させる。	A B	・「学力の向上や定着に向けた取組等が、いわゆる「語込み」とならないよう留意していくことが必要だと考える。 ・児童一人一人の実態に応じた指導や支援の視点として、たとえば児童一人一人の得意とする教科や内容等に焦点を当てて伸ばしていくことも必要ではない。 ・授業や学習でのICTの活用について更なる充実に期待したいと考える。	・基礎的・基本的な内容の定着に向け、「東京ベージックドリル『練習シート』」等の日常の授業や家庭学習への一層の活用を図る。 ・基礎的・基本的な内容の定着に着け、授業に関する研修の充実と「朝学習」「家庭学習」の工夫を図る。 ・授業におけるICTの活用について、特に児童の活用の促進を図っていく。													
								体力の向上	・体育科の授業改善に資する校内研究の推進 ・休み時間を活用した「運動遊び」の全校実施による運動意欲の向上	・「ライブラリアドバンス 江戸川つstudy week 1」の取組による基礎的・基本的な内容の習得と定着 ・一人一台端末等のデジタル技術を活用した学びの充実	・校内研究で扱う内容を体育科及び特別支援教育とし、個に応じた支援や指導の充実を図るとともに、必要な運動量の確保に努める。 ・休み時間を活用した「運動遊び」の全校実施による運動意欲の向上	・児童対象の意識調査を年2回実施し、体力の向上の取組に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B B	・体力の向上に関する課題については、日常生活における利便性の負の側面と感じる。 ・休み時間の様子からは友達と仲よく元気に遊んでいる様子が見られる。 ・休み時間や主体的に体力づくりに取り組むことのできる時間や場所を学校のみならず家庭、地域でつづけていく必要があると考える。						
															読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・近隣公立図書館を活用した読書に親しむ環境の充実 ・巡回司書やSSSを活用した学校図書館の整備	・「読書科ノート」活用資料データの共有 ・読書科推進研修の実施(年1回以上) ・「江戸川つ子 読書科コンクール」に向けた取組の推進 ・団体貸出による学級文庫の充実と授業への活用(月1回) ・巡回司書(隔週)とSSS(毎日)による蔵書管理や配架、図書室及び閲覧室の環境整備	・「読書科ノート」を活用した調べ学習等の取組を各学年年2回以上実施する。 ・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を20冊以上にする。 ・「江戸川つ子 読書科コンクール」に向け、夏季と冬季の長期休業中にそれぞれ課題を設定し、図書を活用した学習に主体的に取り組む素地を養う。	B B	・「読書科ノート」の活用に向け、区教育委員会指導主事を講師として招請し、読書科推進研修を実施した。今後、研修内容を指導に還元させるべく、取組を策定し推進していく。 ・図書室や学級文庫の整備など、児童が読書に親しむ環境の整備に努めることができる。 ・読書と一人1台端末の併存、併用等の在り方について検討が必要である。
子どもたちの健全育成	・いじめや不登校の未然防止、早期発見、組織的な早期対応に向けた取組の充実 ・「ふれあい月間」の取組を核とし、児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応を図る。 ・SSWの巡回訪問や随時訪問の機会を積極的に活用し、児童や保護者に寄り添った支援の充実を図る。 ・「Hyper-QU」の調査結果の共有や分析を行い、指導を目指す。	・通常学級と特別支援教室にそれぞれコーディネーターを配置するとともに、SC(年38回)等と定期的な情報交換等、連携を密にするとともに、エンカレジャーームを活用する。 ・定期的な情報交換として各種履の交換(月1回)等を行うとともに、可能な範囲で共同学習を実施する。 ・校内研究で扱う内容を体育科及び特別支援教育とし、年2回の講師講演と年3回の授業研究を通して特別支援教育への理解と実践力の向上を図る。	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、問題行動等への対応に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ・いじめが疑われた場合は、3か月以内の100%解消を目指す。	B B	・子どもについて心配などがあった際に、相談や対応の体制が整っていると感じた。 ・特別支援教育が全ての児童を対象としていることや共生社会の実現に向け、取組や条件整備を着実に推進していくことに期待したい。															
						学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 ・「評価結果について「学校ホームページ」上に公開し、保護者や地域に開かれた学校運営の実現を図る。	・「運動会」「文化的行事」「学校公開」を活用した参観の機会を年6回程度設定する。 ・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。	・「運動会」や学校公開等の行事等については、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら段階的に参観方法等を見直しを行っている。 ・本報告書と併せて令和4年度前期 学校教育アンケート【保護者】の学校ホームページへの公開等を行うなど、保護者や地域に開かれた学校運営に努めている。	B B	・運動会や学校公開等の行事等について、参観方法等の見直しに期待したい。 ・各種のお便り等について、ペーパーレスのメリットを勘案し、良い情報発信の在り方の検討に期待したい。									
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	・「学校ホームページ」や「連絡メール」など一人一台端末等を活用した情報発信等の充実	・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。 ・必要な連絡や児童の様子等についてICTを積極的に活用し、情報の共有や教育活動への活用を図る。	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、学校の情報発信に対する満足度を80%以上にする。 ・児童や保護者等との連絡手段としてのICTの更なる活用に関する課題がある。	B A	・学校ホームページの内容や更新頻度の向上に期待したい。 ・欠付連絡等を含む児童や保護者との連絡手段としてのICT活用を期待したい。															
						「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・職員会議40分以内の終了を目指す。 ・定時一斉退庁日を月1回以上設定する。 ・年度末までの期間に全教職員が年次有給休暇を10日以上取得することを旨とする。	・職員会議40分以内の終了を目指す。 ・定時一斉退庁日を月1回以上設定する。 ・年度末までの期間に全教職員が年次有給休暇を10日以上取得することを旨とする。	B B	・学校の「働き方改革」については喫緊の課題だと承知している。 ・各数値目標に関する状況等について、保護者への情報発信を検討してはどうか。									
心の教育の充実	・異学年集団活動による「思いやり」の育成	・異学年集団活動による定期的な「ふれあい」活動や、年一回の全校遠足を実施し、児童がやりがいを感じたり他者を思いやったりすることができようとする。	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、異学年活動に対する満足度を80%以上にする。	B B	・異学年集団活動を通じて児童に身に付けさせたい方だについて、明確にする必要があると考える。 ・「思いやり」の心が実践的体動や行動に表れていくことに期待したい。															
						連携・協働による教育の推進	・「学校応援団」による「読み語り」や地域の人材や環境を活用した教育の推進	・朝の時間帯を活用した「読み語り」を年10回実施する。 ・旧中川や地域施設を活用し、「地域を学ぶ」地域で学ぶ「地域と学ぶ」教育を推進する。	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、連携・協働による教育の推進に対する満足度を80%以上にする。	B B	・地域の環境に親しむことや、それらについて理解することは重要だと考える。 ・地域の自然や環境に親しむ学習や活動に継続的に取り組んでいくことに期待したい。									